

リレー 橋友録 私の橋歴書

〈995〉



愛知県内にある橋梁鉄 配属しましたが、その後 2年間は瀬上建設事業に 出向し架設計画と現場施 工管理を学びました。そ の30年の節目を迎えま して設計課に戻って詳細 設計等を経験し、生産管 理課で製作を学びまし た。その後技術開発室で 開発と提案の経験をし、 今では設計グループに戻 っ て実作業をしつつ若手の 指導をしています。これ までに得た知識や経験と 知り合ったたくさんの方 々の人脈が、私の貴重 な財産であり今の私を支 えています。以下に代表 的な業務と思い出を紹介 します。

25歳の時、ケーブルエ レクション直吊り架設計 によるアーチ橋の架設計画 と現場施工管理を経験し

人とのつながりを大切に

瀬上工業株式会社

生産本部
設計グループ 部長 上田 博士

がとても貴重でした。その橋の設計照査を担当し として工程も厳しく図面作 しました。 図面上の段階で数量を拾 43歳の時に東北地方太 平洋沖地震が発生し震災 調査で各地を回りました が、石巻市で見た悲しい 光景と異い今も忘れま せぬ。その後、岩手在住 でボランティア活動して いた友人から「被災した

小学生で文房具が不足し 集めている」と聞いたの で、私は社員に呼びか け、水彩絵の具セットと 書道セットを20セットほ ど集めて釜石市の鶴住居 小学校の子供達に届けて もらいました。 44歳の時、浜松市にあ る1965年に建造され た歩道の吊り橋が、主索 の破断で崩落しかけ直下 の国道が通行止めとなっ たため、現地へ急行し撤 去計画の立案と現場施工 管理を担当しました。橋 の主索と吊り索が信号機 が複雑であったことが 伝えています。 次は23年前の今治の設 計時代に設計だけでなく 麻雀やギターも教えてい たとき、多岐にわたるシ ステム大畑和夫さんに

々から感謝の言葉をいた だき、この経験に私も感 謝しました。 現在は1934年に建 造された上武大橋をリニ ュアルし、日比田調整 池管理橋として使用する 埼玉県の移設工事に携わ っています。本橋は鋼ト ラス橋で、太平洋戦争時 代に受けた機銃掃射の弾痕 があって歴史的価値があ ります。物を大切にする 取り組みで、地元の方々の 思いを残せて意義深く 感じてもらいます。これか らも仕事を通じて人との つながりを大切にしたいと 思っています。